

(様式 12)

氏名(本籍) 中村 昭博(北海道)
学位の種類 博士(歯学)
学位記番号 甲 第345号
学位授与日 2017年3月15日
学位授与の要件 博士の学位論文提出者(学位規程第11条第1項該当者)
学位論文題目 「口腔内の異なった部位における唾液pHの
長時間モニタリング」

論文審査委員 (主査)教授 渡部 茂
(副査)教授 村本 和世
(副査)教授 天野 修
(副査)教授 坂上 宏

論文内容の要旨

口腔内環境を制御している唾液は概日リズムによって分泌速度が変化している。本研究はその変化と口腔内pHとの関係、および小唾液腺唾液の影響について明らかにすることを目的とした。

各被験者に対し、上顎中切歯唇側面(UAL)および上顎第一大臼歯頬側面(UPB)に、pHセンサー(アンチモン電極)を装着し、両部位におけるpHの長時間モニター(9:00~17:00)を行った。また上下顎口唇部の小唾液腺のpHの測定も行った。

その結果、UAL、UPBにおけるpHは、9:00より12:00までは時間の経過とともに各々有意な上昇を示した。午後は14:00をピークに緩やかな下降を示した。UALとUPBの比較では常にUALがUPBより有意に高値を示した。上口唇の小唾液腺唾液のpHの平均値は 6.7 ± 0.4 (範囲6.2~7.4)を示し、日中(9:00~17:00)のUALのpHの平均値と同じ値であった。

これらのことから、唾液pHは14:00頃にピークとなる唾液分泌速度の概日変化の影響を受けていることが示唆された。またUALのpHがUPBより高値を示したのは小唾液腺唾液の影響を受けていることが示唆された。

論文審査および試験結果の要旨

本研究は口腔内pHを長期モニタリングした初めての研究である。UALは口唇部の小唾液腺唾液の影響でpHが維持されていること、また唾液分泌の概日リズムにpHも影響を受けていることが明らかとなった。これらの知見は口腔環境を診断する重要なデータを提供していると判断された。

申請者、中村昭博に対する論文審査は、2017年1月16日、主査、渡部 茂、副査、村本和世教授、天野 修教授、並びに坂上 宏教授の4名により実施し、主論文の内容に関して種々の事項について口頭試問を行った結果、合格と判定した。よって申請者、中村昭博は、博士(歯学)の学位を授与されるに値するものと判定した。

よって、申請者：中村 昭博は、博士(歯学)の学位を授与されるに値するものと判断した。